

新緑の
季節

標茶町郷土館へ いらっしやいませ



郷土館には、年間約5,500の方が来ます。来館される方々は観光客や、町内の方々が多く利用しています。

郷土館では、各地区会の研修や学校授業への協力などを行ってきましたが、個人の方にも希望があれば、館内解説や質問などを受け付けています。来館時以外にも電話やメールでも受け付けています。

皆さんのお越しをお待ちしています。

標茶町郷土館のメールアドレス
kyodokan@sip.or.jp



大川のほとり

—郷土館だより(第54号)—

☎487-2332

開館時間

午前9時30分～午後4時30分

郷土館より
一筆啓上

今年も郷土館では、歴史、自然の講座や移動展を予定しています。郷土を知り、標茶をもっと好きになる事業を増やしていきたいと思っています。よろしく願い致します。(坪)

自然かんさつはじめの歩

その2

「絵本の世界から始めてみる」



春になり一番花が咲き誇る季節になりました。「生き物の名前がわからないから、自然を楽しめない」という話をよく聞きます。どうも大人になると「知識」から入りがちで、名前を覚えることがプレッシャーになり、目の前の自然を楽しんでいないようにみえます。そんな大人にぜひお勧めしたいのが、絵本を使って「感性」から始める自然観察です。

1、絵本を読み返す

子供のころ読んでいた絵本を読み返すと、思いのほかたくさん生き物が登場することに気づきます。「つるのおんがえし」にはタンチョウ、「てぶくろをかいに」にはキツネ、「いなばのしろうさぎ」にはウサギのほか、湿原に生えるガマという植物が出てきます。子供のころはあまり気に留めなかったかもしれませんが、どれも町内で見ることができる生き物ばかりです。

2、絵を楽しんでみる

インターネットなどで絵本のあらすじを追うのではなく、ぜひ実際に絵本を手にとり読んでみてください(今回紹介する絵本はすべて図書館にあります)。絵本を開くと、作者の自然観を感じるができます。いわむらかずおの『14ひきのピクニック』(童心社)は、背景の生き物たち一つ一つが丁寧に描かれており、知っている生き物が見つかると思います。



手島圭三郎は北海道出身の版画家です。『おおはくちちょうのそら』(リブリオ出版)では北海道の自然が力強く描かれています。北海道に暮らす人なら、きっと「みたことある風景」を見つけていることができるはずです。

『ピーター・ラビットのおはなし』の作者で有名なビアトリクス・ポター。彼女は絵本作家だけでなく、自然保護活動家でもあり、またキノコの研究者でもありました。彼女の絵は、研究者としての視点があり、図鑑に用いられるほど詳細なスケッチに基づいています。





しべちや寫真館 しゃんかん

「カムイ岬神社に置かれた丸木舟」

撮影 昭和29年9月（今から58年前）
 場所 標茶町塘路（塘路湖カムイ岬神社前）
 出典・所蔵 標茶町郷土館

塘路湖北岸にあるカムイ岬に置かれた丸木舟が、強風による大波を被っている様子です。非常に大型の台風15号の影響で、のちにこの台風は「洞爺丸台風」と呼ばれました。

この写真は、弟子屈町の郷土史家更科源蔵氏が、ペカンベ祭りを映像フィルムに記録する際に、手伝った地元の人によって撮影された写真です。悪天候の中撮影が強行されました。その時の映像資料は、郷土館に残されています。

郷土館ミニだより

≡新しく登録されました!≡



2005年に郷土館報告17号にて、それまでに町内で見つかった植物607種が報告され、668点の押し葉標本が作成されました。その後新たに見つかり、標本が追加された植物を紹介します。

前名：ヒトリシズカ（センリョウ科）

学名：Chloranthus japonicus Sieb.

標本採取日：2007年5月21日

採取場所：阿歴内の山林

草丈20～30cm。5月の花のころの葉の長さは2～3cmと小さいですが、花が終わるとおよそ10cmへと大きくなります。可憐な花の頃とは似ても似つかなくなります。名前は源義経の恋人「静御前」に由来します。

3、本物に触れてみる

絵本を読んでいると、出てきた生き物を実際に見てみたくなりませんか？映画のロケ地ツアーならぬ、絵本の世界ツアーとして、ちよっと外に出てみてください。『みにくいあひるのこ』のハクチョウ、『かもとりごんべえ』のカモ、『王様の耳はロバの耳』のヨシ、アンデルセンの『白鳥の王子』でかたびらを作ったイラクサなど、私たちが住むこの土地には面白いほど身近に絵本の世界が広がっています。

4、新たに絵本を探す

自然を観察して今度は「この生き物が出てくる絵本あるかな？」という気持ちになったら、本を探すプロである図書館の方に相談してみるのがいい方法です。また、船橋斉ふなはし せいという方が書いた『絵本の住所録』（法政出版）は、「キツネ」「ウサギ」といった項目ごとに絵本のタイトルがリストアップされているので、お目当ての生き物が出てくる絵本を探すことができます。



5、「ものがたりのかんさつかい」

郷土館ではおとしから「ものがたりのかんさつかい」という自然観察会を行っています。観察会では、生き物が出てくる絵本の紹介や、実際に絵本に出てくる生き物の観察をします。参加者からは「ありそうでなかった新鮮な観察会」という感想を頂いています。

「生き物の名前が見ただけですぐわかったら、どんなにいいだろう」その気持ちはとても良く分かります。でも自然の楽しみ方には決まりはなく、専門家のように名前を覚える必要はないのです。「名前がわからないから自然はわからない」と、はなからシャットアウトしてしまうのと「これ、絵本に出てきたね」と自分なりの楽しみ方とらえていくのでは、自分が暮らしている土地の自然に対する気持ちがずいぶん変わってくるのではないのでしょうか？



名前は忘れたら、必要なときにまた調べればいいだけのこと。時には「知識」のプレッシャーから離れて自分の「感性」に耳を傾けて楽しむ。それがその土地の自然を知って好きになる「自然かんさつのはじめの一步」になるはず。